

週報

1989年10月29日 降誕前第9主日

特別伝道礼拝

巻 10 31号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋吉隆雄

一牧師室から一

ここ数カ月、創世記のアブラハムの生涯から説教してきたが、彼から多くのことを学んだ。アブラハム物語は人間の弱さとそれを越えて導く神の言葉の確かさをテーマとしている。私はアブラハムに聖書が示す「原人間」を見る。

アブラハムの生涯を決定づけたのはその出発にある。彼は熟年に達し安定していた頃、肥沃な月を拝む偶像礼拝の町ハランから、過酷な自然と民族抗争に明け暮れる荒野へと無謀にも旅立った。この時、アブラハムは心の中でハランでの生活に大きな疑問を持った。豊かで安直な生涯は保証されているけれども、全てが回りによって流され、自分自身を失っていくことを恐れたのである。今日の言葉でアイデンティティーの確立を目指したと言えよう。私はそれを「人間になる」ことへの求道だと思う。聖書はこの疑問と求道を神からの「召し」と告げる。アブラハムを待っていた荒野は本当に酷しかった。彼は苦悩に絶叫し、飢え

に泣き、他民族との交渉に心を削った。その中で彼は納得のいく自分の人生を見出し、揺るがぬ確信を得た。そして、深い落ち着きと高い知恵を得、平安の中で長寿を全うして逝った。

私は自分自身と今の時代を考える時、アブラハムから衝撃を受ける。今日、私たちの生は社会に規定され、時代の作る価値観に流され、自分はこう生きると主張することができない。そこに、現代人の深い不安とやり切れぬ空しさがある。アブラハムはその私たちにあなたはどこに立ち、何を指しどう生きるのかを真摯に問いかけてくる。

聖書はアブラハムにこの求道を促し、それを可能にしたのは神であると語る。聖書の文化は一人相撲ではなく、絶対他者なる神から呼びかけられ、その神と対話する中で導かれていく。それを信仰と言う。従って、神を求める信仰は自分自身を問い、隣人・社会との関わりを問いつつ「人間になる」ことである。